

事例1 単元「受け取ろう 椋鳩十さんが残したメッセージを ～大造じいさんとガン～」

## 学習日記（ふり返し）を生かした指導の改善

国語 第5学年

金沢市立材木町小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、めざす子ども像「自ら学ぶ子」に迫るため、15年度より一貫して授業の終末場面の「ノート」を検証し、子どもの「学力向上」と教師の「授業改善」を進めてきた。子どもの実態に基づき、教師一人一人が個人テーマを設定し研究を進めている一方で、共通に子どもの自己評価（ノートのふり返し）を積み重ねており、それを授業の手立てや学級経営に活用することで「学力向上」と「授業改善」を図っているのである。これは、「学力」を単なる「知識的な学力」と捉えるのではなく、子どもたちが「自分の学習状況を自分で点検・反省し、次の自分の目標や行動を設定し、改善、調整したりする力（＝自己評価力）」を含めて捉えているからである。「自己評価力」は子どもたちの「確かな学力」を支える大切な土台である。本事例は、学校研究にある「ノートのふり返し＝学習日記」を生かしながら、国語科でつけたい学力である「伝え合う力」を高めるため、指導の工夫改善を図ったものである。

A-1 学校研究

A-2 国語科年間指導計画（H16・17年度 高学年）

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・作品を読み重ね、椋鳩十が作品にこめた思いを考えることを通して、登場人物の心情や場面についての描写を味わいながら読むことができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 子ども自身が、学びの「必要感」と明確な「めあて」を持つことができる単元の導入

- ・子どもたちはこれまで、作者への興味を持ち作品を読んだ経験が少ない。本単元では伝記の読み聞かせからスタートし、作者への興味を持って『大造じいさんとガン』を読めるようにしていきたいと考えた。そうすることで、他作品への広がりにつながると考えたからである。

##### ② 基礎基本を学ぶ場や学び方を習得する場、思考を深める場の設定

- ・子どもたちはよく発言するのだが、考えが積み上がらなかつたり答えが導き出せないということがあつた。それは話し手も聞き手も根拠となる叙述をもとに考えを話したり聞いたりすることができていないためだと考えた。そこで、根拠を明確にするためのワークシートを用いたり、少人数から多人数へと話し合いの人数を変化させ、どの子にも学び方が身につくようにした。

##### ③ 学びが生かされた実感、達成感のある単元のゴールの設定

- ・第三次で椋鳩十の他作品を重ね読みする構成にした。第二次までにつけた力を、それぞれが生かす場を設定することで、それぞれの児童についた力がより明確になると考えたからである。自分のよさや課題、変容を知ることは、確かな自己評価力につながると考える。

##### ④ 自己評価（ノートのふり返し＝学習日記）の活用

- ・話し合いのあとに学習日記を聞き合う場を学習計画に位置づけた。そうすることで友達との学び合いが実感でき、自分や学級集団の成長、反省点が自覚できるようにと考えた。

B-1 指導上の工夫 詳細

### 3 指導の実際

第一次 <少年むくはとじゅう物語を読もう>

- ・感想交流後、学習計画を立て、単元の見通しを持つ。
- 《 受け取ろう 椋鳩十さんの残したメッセージを 》

①子どもたちは、伝記の主人公に興味を持ち、学習に対する意欲や見通しを持つことができた。

彦穂少年は椋鳩十さんという作家になったよ。200もの動物に関する作品を残した椋さんは私たちに何を伝えたかったのだろう。  
椋さんからのメッセージを受け取りたいな。

第二次 <大造じいさんとガンを読もう>

- ・あらすじの理解・学習問題作り
- <こだわりの学習問題を解決しよう>
- ・グループを作り考えを伝え合う。
- <大造じいさんとガンで椋さんが伝えたかったことは>
- <友だちとの話し合いで深まったことを交流しよう>

②根拠を明確にするためのワークシートを用いることで、課題に対する考えの根拠をいくつかの叙述から考えることができた。

第三次 <他の椋鳩十作品を読もう>

- <椋さんが読者に伝えたかったメッセージは何だろう>
- <友だちとの話し合いで深まったことを交流しよう>
- ・ノートでの交流をする。

③他作品を重ね読みし、二次でついた力を生かす場を設定することで、自己の変容を実感することができた。

④学習日記を交流する場では、友達との学び合いから得られる深まりを、個人だけでなく学級全体で実感することができた。

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 授業の詳細

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 情景描写や登場人物の心情を読み取る力の向上

- ・情景描写や登場人物の心情を読み取るワークシートを工夫することで、どの子も自分の考えを支えるための根拠（叙述）を複数持つことができた。話し合いの人数を変化させたり、椋鳩十の他作品を重ね読みしたりすることで、つけた力を他の場で生かしていくことができ、力の向上を子ども自身が実感することができた。

##### ② 伝え合う力の向上

- ・前述の4点にあるような指導上の工夫を重ねていくことで、6年生になると自分たちでよりよい表現の姿、追究の姿を設定し、伝え合う力を高めていくことができた。

##### ③ 自ら学ぶ力・自己評価力の向上

- ・「必要感」のある単元の導入や、「達成感」のある単元のゴールを設定するなど、子どもとともにつけた力を考え進めていくことで、自ら学ぶ力や自己評価力がついた。

##### ④ 文章で自分の考えを的確に表現する力の向上

- ・全校で、自分の考えを的確に書く力の育成に取り組んできた結果、平成17年度石川県基礎学力調査では、書くことの領域で高い通過率が表れた。

#### (2) 課題

- ・単元の目標にある言語能力をより具体的な姿におおして、明確なねらいを持ち、一人一人の言語能力が育成される授業を展開していかなければならない。

D-1 成果と課題 詳細

D-2 一年後の児童の姿（平和のとりでを築く）

## 消費者の立場からスーパーのよさを考えてみよう

社会 第3学年

白山市立朝日小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では研究主題『主体的にかかわりあう子の育成』のもと、課題解決学習を中心に据え、自分の考えをしっかりと追及する、子ども主体の授業づくりを進めている。

4月、授業を支える基盤を構築するため、学習環境を整えた。話し方・聞き方・学び方のルールの共有化である。また何でも話し合える雰囲気づくり、信頼関係についても留意していった。

3年社会科では、「身近な地域の事象に進んで関わることで地域に対する見方や考え方を広げ、地域に対する愛情をもつ」ことができるような学習を進めていく必要がある。

そこで1年間の年間計画を緻密に立てながら、教材研究に力を注ぎ、地域に密着した学習を構想し展開していくことにした。親しみをもって教材に接することができた時、子ども達は自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を発揮し高めることができると考えたからである。

社会科の導入単元「学校のまわり」では、校区を自分の足で歩き、五感を働かせながら事実と対話し、分かったことをまとめ考えていく学習からスタートさせた。また、3学期単元「くらしを守る」は地域の実情も考慮に入れ、体験や見学、調べ活動ができる1学期に組み入れた。「農家の仕事」では地域の特産を調べ、『月橋のなし名人』との触れ合いから、学習をスタートさせていった。

本事例は、これまでの社会科の学習の基礎を土台としながら、体験を通して調べ、考え、まとめる活動から、地域の店で働いている人々の思いや願いに迫ろうとした実践である。

A-1 学校研究

A-2 「学校のまわり」指導案・活動記録

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・お店で働く人々の仕事に関心をもち、消費者の願いに合わせて販売の工夫や努力をしていることを考え、自分も消費者の一人であるという意識をもって、見学・調査活動を進めることができる。（\*観点別目標はWEB資料参照）

#### (2) 指導上の工夫

##### ① 教材（地域素材）との出会いの場の工夫

- ・自らの矛盾・驚き・疑問の気づきから、もっと地域の実事と向き合い対話したくなるもの
- ・自分の生活と結びつけたり比較したりしながら、考えたり調べたりできるものであること
- ・地域を学習活動の場と捉え、地域に出向いて主体的に関わり合いながら活動できるもの

##### ② 学習展開の工夫

- ・体験的な活動の充実
- ・多様な学習活動の工夫（話し合い・調べ学習を中心に）
- ・学習をふりかえり、考え表現する場の設定

##### ③ 指導法の工夫

- ・単元全体を貫く学習課題の設定
- ・課題解決に向けての教師の支援

##### ④ 評価の工夫

- ・授業の振り返りを残していく
- ・振り返りの生かし方
- ・多面的に捉えた評価方法



B-1 指導上の工夫

### 3 指導の実際

#### 第一次 買い物調べてわかったこと (3 時限)

- 家の人はどこで何を買っているかな。(1週間の買い物調べ)
  - ・自分の体験を想起する。
- ＜なぜM店(スーパーマーケット)で買い物する家が多いのかな＞
  - ・調べ活動の結果を発表し合う。→全体の結果をグラフや写真で明示
  - ・消費者の立場から理由を考える。
- M店を見学する計画を立てよう。
  - ・ひみつや工夫を見つけるための作戦を、グループごとに立てる。

商店街に住んでいる子どもも多く、近所の店や本屋などで買い物をした経験のある子ども、半分もいた。『では、家の人はどんな買い物をしているかな?』と聞き返すことで、見つめ直そうという意識をもち、調べ活動ができた。また、自分たちとは違う、買い物の仕方や願いについて考え合うことができた。

#### 第二次 スーパーのひみつを調べよう (6 時限)

- M店に見学に行こう。
  - ・自分の立てた作戦で活動する→見る・調べる・聞き取り・メモ等
- ＜M店のひみつや工夫を話し合おう＞
  - ・見学から自分なりにわかったことを発表し合う。
  - ・買った品物やもらったレシートからひみつを探っていく。
- M店のひみつをまとめよう。
  - ・オリジナルひみつ新聞をつくる。

家の人がM店によく行く理由を手がかりに、なぜM店には人が多く集まるのか、そのひみつを探る手立てをグループごとに考えさせた。学習課題を投げ返し、見直し・確認させた結果、目的意識をもって調べ活動を進めることができた。また消費者の目から、買い物体験をさせたことで、品物やレジについても着目し、ひみつを探っていた。

#### 第三次 わたしを選んだお店 (4 時限+ 課外)

- スーパーのほかに、どんなお店があったかな。
  - ・いろいろな店の特徴について確認する。
- 調べてみたい店を選んで取材してこよう。
  - ・その店のこだわりや良さをどんな方法で調べるか計画を立てる。
- 宣伝パンフレットをつくらう。
  - ・お店の特色をわかりやすくまとめていく。
- ＜店長として、わたしを選んだお店を紹介し合おう＞
  - ・買い物に行きたくなるような交流会の場をもつ。

見学・調べ活動や話し合いをもとに、生き生きとスーパーの「ひみつ新聞」を作ることができていた。達成感のある子ども達に『お店はスーパーマーケットだけだったかな?』と問い返すことで、もう1度、身の回りにあるいろいろなお店について思い出させ、確認させた。そのうえで、自分が店長になってみたいお店を1つ選んで取材に行き、みんなに宣伝することで、違う視点から働く人々の願いや工夫に気づくことができた。

C—1 指導案(単元・評価計画も含む)

C—2 活動の足跡

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

今年度は1時間1時間の授業の課題を明確に提示し、共に考え学習を進めていくため、全て自作のワークシートを用いて授業を進めていった。その結果、自分自身も児童と一緒に新しい教材に向き合い、授業の中で調べさせたいことは何か、調べたことから考えさせたいことは何か、より明確になった。また、児童にとっても課題に対してのまとめや振り返りが書きやすかったようで、1時間で問題解決ができたという充足感が感じられた。また、課題に対しての考えや調べた結果には必ず目を通し、振り返りを次の授業に生かすことができた。

#### (2) 課題

本実践は、身近な消費者の立場から地域のお店で働いている人々の思いや願いに深く迫ろうと活動計画を立てたが、働いている人の日々の見えない努力や工夫についての学ぶ視点が全体的に弱かったため、子ども達はスーパーの「ひみつ新聞」を客観的な立場からまとめていた。パンフレットづくりでも、主人公である店長が、他店に負けなために日々行っているこだわりやその願いにまで追究できなかった子が多かった。スーパー見学でもう1回、視点を変えて店長さんのしている仕事の調べ活動などを取り入れると、その人が大切にしている願いや生き方まで深められたのかもしれない。

C—3 ワークシート

## 循環型自動車工業をめざして

社会 第5学年

金沢市立大浦小学校・教諭

### 1 事例の概要

子どもの学力低下が社会問題となる中、教育現場には学習や生活の基盤となる確かな学力の育成が強く求められている。社会科においては、国家・社会の一員として生きていくための資質や能力、知識や技能の定着を、授業を通して培っていかなければならない。

本校の子ども達は、授業に対して前向きに取り組む子が多く、発問に対して真剣に耳を傾け考えようとする。また、考えを問う発問に対して自分の考えがまとまらない時にも、友達の考えをしっかりと聞くことで考えを構築しようとする姿も見られる。しかしその一方で、発言内容や構成を聞き分け、自分の考えと比べる意識はやや弱く、話し合いの場面での個々の思考の深まりがあまりない。また授業後のふり返りでは事実は書けるが、さらに自分なりの考えをもち表現することができない子が多い。

以上の実態を踏まえ、学ぶことに対する意欲の高さを大切にしながら、学びの基礎力や思考・判断の育成を目指していきたいと考えている。そのためには、学ぶ意欲の持続が欠かせない。さらに学習課題を共有するための手立てや、必要感をもって調べ自分の考えを構築するための工夫などをおこなっていく必要がある。

本事例は、学習課題が設定されるまでを第一段階、調べ活動から話し合いを通して課題が解決されるまでを第二段階、さらに新たな課題意識が生まれ次時へと思考がつながるまでを第三段階と、学習の展開を3つに分け、各段階において具体的な支援や評価の在り方を実践したものである。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・自動車工業に従事している人々の工夫や努力について意欲的に調べることができる。  
(関心・意欲・態度)
- ・我が国の工業生産が国民生活の向上や産業の発展に果たす役割、明るい未来のために資源の有効利用を見据えた循環型工業の重要性について考えることができる。  
(思考・判断)
- ・原料の輸入、生産、販売、解体・再利用の循環型の工業について、調査活動や各種資料を活用し調べ、分かりやすくまとめることができる。  
(資料・観察の技能・表現)
- ・私たちにとって身近な自動車は、従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸の働きなどに支えられながら生産されていることを、また使われなくなった後も解体し、再利用されていることを理解する。  
(知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 学習指導の工夫改善

- ・主体的な学習を促すために、小単元全体または次全体を貫く『核』となる課題意識をもたせ、学習課題を設定する。
- ・社会的なものの見方や考え方などを育成するために、学習課題に対する自分の考えをもたせる場や考えを出させる場を工夫する。

##### ② 評価の工夫改善

毎授業の最後にふり返りを書かせ、またふり返りを課題意識の持続に活用する。

### 3 指導の実際

第三次 ☆新たな事実との出会い


自動車保有台数

94年 → 03年  
約1000万台増

使用済み自動車数

94年 → 03年  
約100万台増  
今後もっと増?

山中に積み上げられた自動車



もったいない… 多くの人が一生懸命作ったのに

この車はこの後どうなっちゃうの？

☆新たな課題意識の芽生え <あのたくさんの使用済み自動車はこの後どうなるのか>





一般的には  
75~80%が再利用されている

95%も再利用している  
工場が自分達の校区に！

☆校区のリサイクル工場との出会い

☆全体を貫く課題意識 <95%も再利用されている、その工夫は何か>

☆本物に触れ実感する工場見学（人の姿、音、におい…）

見学で調べたことをもとにした話し合い

オイルやガソリンは燃料として再利用  
→まず最初に抜くのは火事を防ぐため

大きな機械で分けた後、手作業で細かく種分け→少しでも無駄をなくす工夫

社員からの改善議案書→全員でいい仕事をしたい

暑い中で汗をかきながらの作業…

大きな音の中での仕事…

シートは椅子、タイヤは車止めに→別の物に利用

95%も再利用するためには並大抵の工夫・努力ではだめなんだ…

☆教師からの揺さぶり（なぜそこまでしてこの仕事をがんばっているのか）

子ども達から考えを聞いた後、工場の社長さんのお話をビデオで視聴する。

### 4 成果と課題

C-1 指導案

#### (1) 学習指導の工夫改善

- ・使用済み自動車が増加している事実、95%という高い率での再利用に成功した工場が校区内にある事実を重ねて提示することで、全体を貫く学習課題を設定することができた。学習課題の設定には、個々の課題意識の高揚とそれが学級全体のものとして共有化されることが大切であるが、時間をかけず効率よく設定する手立ても必要である。
- ・校区内の工場での具体的な調べ活動を通して、高い意欲のもとで考えを深めていくことができた。しかしその考えを表出する場において、発言の違いを的確に聞き分け、互いの考えの違いに気づき、新たな展開へとつなげられるよう考えを分類する板書の工夫が必要であった。

#### (2) 評価の工夫改善

ふり返りは意識の持続や考えの交流、さらに学習への意欲を喚起させるものになった。また、ふり返りを教室掲示に活用することで、授業の間に自分の考えとの比較を促す資料となった。

D-1 成果と課題

### 5 その他

E-1 「水産業」指導案

E-2 「幕末・明治維新」指導案

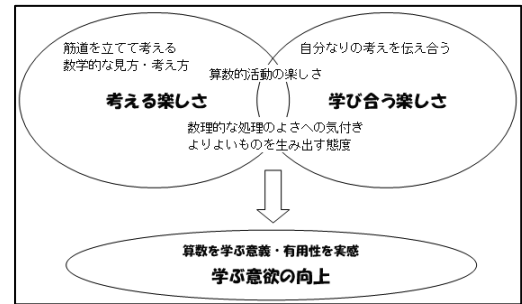
## こんでいるのはどっちかな？

算数 第6学年

七尾市立徳田小学校・教諭

### 1 事例の概要

算数科は、計算やテストなどの結果から、「できる」「できない」がはっきりしてしまいがちなため、子ども自身にとっても「できない」「わからない」＝「楽しくない」となっているのではないかと危惧している。本校は算数科において習熟度別少人数指導を実施しているが、算数が苦手だと思っている子どもたちこそ、その楽しさを味わわせたり、生活や自分に役立つという有用感を持たせたりすることが大切ではないかと考える。そこで、考える楽しさと学び合う楽しさに気付かせるとともに、子ども自身が学ぶ意欲を高める実践に取り組んできた。



#### A-1 算数科における授業改善の方向性

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

算数的な活動を通して平均することの意味を考えながら、その意味と求め方を理解するとともに、平均のよさに気付き、生活の中ですすんで使ってみようとする意欲を高める。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 指導計画における場の設定

指導計画を作成する際に、「自分なりに考える場」「考えを伝え合う場」「よりよい方法を見つけ出す場」の3つの場を意図的に設定した。

##### ② 学びを支援する具体的な手立て

子どもの学びを支援する手立てを以下の5つの視点からまとめた。

- ・算数的活動を通して考えさせる⇒自分なりに考える場⇒考える楽しさ
- ・やってみようコーナーの準備⇒自分なりに考える場⇒考える楽しさ
- ・パソコンの活用⇒自分なりに考える場⇒学ぶ意欲
- ・多様な発表方法や発表形式⇒考えを伝え合う場⇒学び合う楽しさ
- ・いつでも使える方法やもっと簡単な方法を考える課題設定  
⇒よりよい方法を見つけ出す場⇒考える楽しさ

##### ③ 算数ルーブリックの作成

子どもと教師が共通のものさしを持って学習の目標を持つことによって、子ども自身は授業での自分の目標を具体的に持つことができ、教師はそのための具体的な支援や手立てを考えることができる。そこで、自分なりの考えを持ったり、それを伝え合ったりすることを自己評価するための算数ルーブリックを作成し、授業の振り返りに活用した。

##### ④ 算数日記の活用

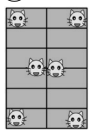

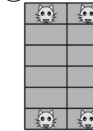

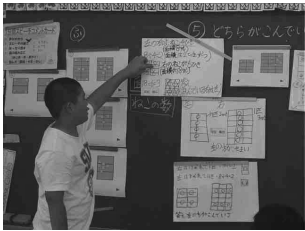
本時の評価規準に対する評価だけでなく、一人一人の個人内評価としての伸びを認め合い、その子なりのよさを広めながら、他の子どもへの目標ともなるような「算数日記」を出すこととした。

#### B-1 指導計画

#### B-2 算数ルーブリック

#### B-3 算数日記

### 3 指導の実際（一部抜粋）

学習内容と子どもの様子	手立てと考察
<p>「比べ方を考えよう」（1 / 10時）</p> <p>-----          こんでいるのは、どちらかな</p> <p>ねこの数と面積に着目してこみぐあいを考える4つの課題を学習した。「1㎡あたりのねこの数」と「1匹あたりの面積」のどちらかをもとに考えようと気付く子がいた。</p> <p>①  ②  ③  ④ </p> <p></p> <p>&lt;使用したデジタル教材&gt;          mow mow mow の部屋（同上）</p>	<p>【課題をプロジェクトで映して考える場】</p> <p>ねこが動いて面積やねこの数に着目しやすくなるデジタル教材を活用した。課題を大きく映し出し、みんなで画面を共有化できるので、学習課題への集中した場づくりもできる。単位量あたりの学習は子どもたちにとって、捉えにくい学習だと思われるので、できるだけ楽しく学習課題に取り組ませたいと考える。ホワイトボード用スクリーンを伝って画面への書き込みができる。</p> <p>【活用の効果】</p> <p>こみぐあいを考える課題に集中して取り組んでいた。このコンテンツの中にはたくさん問題があるが、4つの課題の選択と順序を工夫したことで、「ねこの数が同じだけ広さがちがうから」という声もあった。何に着目するかがはっきりできた。自分なりの理由を持ってどちらがこんでいるかを考えていた。子どもの発表に合わせて画面への書き込みができるので、話していることが視覚的にも共有しやすかったと思われる。</p>

C-1 指導案

C-2 指導の実際

C-3 子どもの学びと変容

### 4 成果と課題

#### (1) 考える楽しさと学び合う楽しさを高める場の設定

【成果】・指導計画の中に「考える場」「学び合う場」を意識して設定⇒本時のねらいの明確化、ねらいに迫る授業設計の見直しにつながる。

【課題】・計算や繰り返し練習の時間の保障⇒一単元の中で「考える場」「学び合う場」を1～2回にしばり、効果的に場を設定する。

#### (2) 学びを支援する手立て

【成果】・算数的活動やパソコンの活用⇒算数を苦手とする子どもにとっては、体験や具体的な操作を行ったり、視覚的に訴える教材の工夫をしたりすることが効果的である。

・発表方法や学習形態の工夫⇒課題に応じて個人学習やグループ学習などを効果的に取り入れたり、ホワイトボード紙など教材を工夫することで、発表しようという意欲が高まり、学び合いにつながる。

【課題】・体験や活動の中から、考える見通しを持たせる手立ての必要性⇒活動や体験だけに終わらず、気付いたことや思ったことをノートに書かせたり、他の場合に変えて考えさせたりする声かけなど、一人一人に応じた支援をする。

#### (3) 算数ルーブリックと算数日記の活用

【成果】・算数ルーブリックの活用⇒子ども自身が本時のめあてを意識できる。

・算数日記の活用⇒学んだことをみんなで共有し、学び合いの意識を高める。学習の足跡（学んだこと）をためていくことで、学びの満足感から学ぶ意欲の向上につながる。

【課題】・算数ルーブリックの見直し⇒子どもにとってわかりやすい基準作りが必要である。



事例5 単元「繰り上がりのないたし算をしよう」

## 形を作って、たし算をしよう [特殊学級]

算数 あすなろ学級 第2学年

白山市立東明小学校・教諭

### 1 事例の概要

本学級は平成15年に新設され、現在児童数は1名である。この児童は、ずっと家庭学習を続けていて、ある程度の力は身につけていたが、机上の学習が多く生活の中で生かせなかった。また、将来、より高いレベルの学習に移行していくことが予想されたものの、現在、習得している基礎的部分が不十分なところもあった。

そこで、つまずきの部分を明確にし、基礎・基本の積み上げをしっかりと行い、生活の中で使いこなせるような力をつけさせたいと考えた。特殊な計算手法を修正しつつ、基本的な計算力を身につけさせたいと考えた。

方針として、視覚的に理解しやすい方法を重視し、プリント上や実物・模型などを自分の手で操作できるように（具体的操作）、つまずいているところを探りながら、戻ってでも着実に積み上げて進めることなどに留意することにした。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・一位数同士の繰り上がりのないたし算ができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 指導法の工夫

たし算では、式の下に点（ドット）を打ち、それを数えて合計を出すという方法で答えを出していた（数えたし）。しかし、この方式ではたす数が大きくなってくると点が横に長くなり、5以上の数になると重なったり数え間違いなどにより、うまく答えが出せない状態であった。そこで分析の結果、数量の把握を、数えることから形での把握に切り替えていくことにした。（数えたしからの脱却）繰り上がりのたし算へ取り組む前に、先に踏んでおくべき段階に戻って取り組むことにした。数えたしにならないよう、加数・被加数の数量をすぐ把握できるよう配慮した。

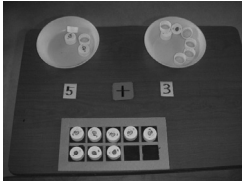
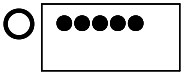
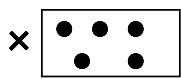
##### ② 活動の工夫

数量の把握が手早くできるよう、2段組のドットカードがいくつかすぐわかるよう毎日クイズとして練習し、形として認識できるようにした。それが軌道に乗ってきたら、次は具体物での操作を始めた。自分の手で操作して確認させるため、式と同じ形式の点を実物のおはじきに模したペットボトルのキャップで作り、操作しながら数えさせることにした。キャップには、興味も持続し楽しく取り組むことができるよう、果物や野菜のシールを貼ったものを用意した。バラバラのまま並べ、数える習慣を改めさせ、10の枠にきちんとドットカードと同じ形にまとめていくことを徹底させながら、取り組ませることにした。

##### ③ 評価の工夫

たし算を具体物を操作しながら行う際、形として認識できるよう、キャップを入れる順番や並べ終わった時の形が、決められた手順でできていたかを重視した。

### 3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援☆・評価★
<p>3 たし算で答えを出す。</p>	<p>〈キャップを使って、式の答えを見つけよう〉</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日はどのキャップでしょうかな。</li> <li>・枠に入れて数えるんだな。</li> <li>・バラバラに入れたらだめだよ。</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・「5」の形はこうだよ。</li> <li>・「3の並べ方は……」</li> <li>・並べたら、「8」の形と同じだよ。</li> </ul>	<p>☆数値の記入がしやすいプリントを準備する。</p> <p>☆楽しく取り組めるよう、ごっこ遊びもしながら取り組ませる。</p> <p>☆自分の手で操作・確認させる。</p> <p>☆形として認識しやすいよう、操作の前後でドットカードの形と同じになるよう配慮する。</p> <p>★決められた形に並べて答えを出すことができる。</p>

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 指導法の工夫

現在行っているたし算の方法をしっかりと分析し、理解状況を的確に把握することで、適切な指導方針をたてることができた。このことは、その後の繰り上がりのあるたし算へ進む際、同じ方針で取り組んだため、スムーズに進めることができたことから明らかである。数量の把握を、数えることから形での把握に切り替えることで、たし算の際の負担要素を減らし、スムーズに次の段階へ移行することができた。

##### ② 活動の工夫

分析の結果、必要となった2段組のドットカードでの取り組みでは、退屈にならないようにゲーム形式にしたり、飽きる前に終わらせて次の活動に移り、毎日繰り返すことで、ぱっと見ただけで、いくつかがすぐわかるようになった。具体物での操作活動でも、退屈せずに楽しく取り組むことができた。また、ドットカードと同じ形にすることは、時間を要したが、計算の結果もドットカードと同じ形になるので、早く答えが出せるようになった。

##### ③ 評価の工夫

キャップを入れる順番や並べ終わった時の形が、決められた手順でできていたか、こだわることで着実に基礎基本を積み上げることができた。

#### (2) 課題

- ・ 理解状況を的確に把握する方法・手段のあり方について更に考慮していく必要がある。
- ・ 活動に取り組みやすいよう、児童の興味関心に沿ったものを用意する必要がある。

## 地層のなぞを追究しよう

### 1 事例の概要

児童の実態として、以下に示す2つのことがあげられた。

- ・「観察・実験の活動はおもしろい。」というが、観察・実験の技能や科学的追究力という面から理科本来の楽しさを十分味わってはいない。
- ・県基礎学力調査の結果から、科学的な解釈や日常生活と関連の深い設問に弱い。  
(実証性、再現性、客観性という視点から、問題解決しようというのではなく、根拠のない回答になりがちである。)

そこで、3つの視点から授業改善をし、確かな学力を育もうとした。

- 1つめ—新たな発見に喜び、科学的な不思議や科学的追究のおもしろさに気づく体験をさせ、学習への興味・関心・意欲を高める。
- 2つめ—単元の見通しや課題の予想を立てて解決したり、仮説の検証という学習を経験したりすることにより、課題探究能力を高める。
- 3つめ—予想や仮説の検証実験の計画、実験結果から結論を導き出す過程で、学び合いの時間を計画的に取り、一人ひとりの科学的なものの見方や考えを深めさせる。

### 2 実践内容

#### (1) 単元目標

- ・身の回りの土地を観察し、大地のつくりや構成物についてとらえることができる。
- ・地層は、流れる水のはたらきなどで長い年月と大きな空間的な広がりの中、つくられてきたことを推論することができる。

#### (2) 指導上の工夫点

- ・興味・関心・意欲を高めて観察のめあてを明確にし、記録をきちんと取らせる。
- ・地層の観察やこれまでの学習を生かして、単元全体の学習の見通しを立てたり、課題に対する予想をもとに課題解決したりする経験をさせる。
- ・計画的な観察・実験や補足的に使用するデジタル教材の活用と、学び合いを生かして課題解決をさせる。

#### B-1 単元指導・評価計画(大地をさぐる)

### 3 指導の実際

#### (1) 学習計画を立てる。


- はっきりしていること ・層に分かれている。「地層」と言う。 ・いろいろな土の色がある。  
はっきりさせたいこと ・層、1つひとつをくわしく見たい。 ・なぜ、分かれているのか。  
・丸い石は、川とは関係があるのかないのか。川は近くにない。

#### (2) 観察したことやこれまでの学習を生かして予想し、学び合いによって深め、実験やデジタルコンテンツを活用して解決する。

##### ① 〈地層から水がしみ出ているのはなぜ?〉〔5/14時 「地層を探る その3」〕

- 予想の学び合い→水がしみ出ているところを作っている地層に粘土があることに目をつけ、  
「地層にも水がしみこみにくいところがあるのではないか」という意見。  
コンテンツを見る前に、これまでの学習や観察を生かして予想することの面白さを学ぶ。

- ② 〈地層はどのようにしてできたのか。〉〔7・8/14時 「地層のできるわけ」〕  
 予想の学び合い→5年「流れる水のはたらき」の流水実験を想起。地層を作るものの中に丸い石があったこと。「川の水で運ばれないと丸く削られないのではないか。」  
 予想を確かめる実験をして、さらにコンテンツで確認。
- ③ 〈海の底でできた地層が、高い山で見られるのはなぜか。〉

学 習 活 動	教 師 の 支 援・利 用 コ ン テ ン ツ
<p>1. 前時を想起する。</p> <p>2. 学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水底でできた地層が山で見られたり、貝の化石が、高い山で見ることができたりするのはどうしてか。</p> </div> <p>3. 課題について考える。</p> <p>① 各自予想をした後、話し合っ推論を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海水面が下がったのか。</li> <li>・火山灰がふり積もったのか。</li> <li>・地層が上がったのか。</li> </ul> <p>本当は、どうなのだろう。知りたいな。</p> <p>② 考えを確かなものにする。</p> <p>「ヒマラヤ山脈のでき方」のコンテンツを見る。</p> <p>4. 課題についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>地層は、とても長い年月をかけて押し上げられて高くなる。だから、貝などの化石を地上で見ることが出来る。</p> </div>	<p>・学習のあしあとを残しておくことにより、児童が課題解決への意欲を高め、多面的に考えるヒントとすることができるようにしておく。</p> <p>・児童の意見や反応を確かめながら、意見を整理し、多面的に考えるおもしろさを体験できるようにする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: right;"> <a href="http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0350/contents/05/05_02_01_t.html">http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0350/contents/05/05_02_01_t.html</a> </p> <p>出典：独立行政法人科学技術振興機構（JST）より、理科ねっとわーくのデジタル教材画像の転載許可を得て掲載しています。非営利かつ教育以外での複写・複製・転写は禁止されています。</p>

### C-1 指導案

## 4 成果と課題

### (1) 成果

「地層は、流れる水のはたらきによってできる。」「海底でできた地層が、地殻の変動によって押し上げられた。」「大地の変化は人類の誕生するずっと前、何千万年、何億年という長い年月をかけてできる。」という時間的・空間的変化の不思議に気づくことができた。また、自分なりの予想を持ったり話し合いを深めたりすることにより、目的意識を持った観察・実験をすることができ、自分たちで立てた問題を計画的に解決するという学習経験を積むことができた。それは次の単元の「水溶液の性質」で、仮説を検証する経験へと発展させることができ、学習の意欲が高まることへとつながった。単元学習後の予告なしテストの平均点は95点であった。誤答が多かったのは、「泥岩・れき岩・砂岩」と答える問題で、総括的に見れば、単なる知識獲得ではなく実感を伴った理解がみられたと言えるのではないかと思われる。

### (2) 課題

堆積岩は一人ひとり観察し、ノートに記録したのであるが、単元終了後の予告なしテストでは正しく答えることができなかった。堆積岩に関する知識・理解面を良くする授業設計となるよう反省しなければならないし、知識の活用が必要となる場面設定や知識定着の意義を意識化する学習等を行うなど、記憶にとどめさせる手だてが必要である。

## 5 その他

- 参考資料・「小学校理科 全単元・全授業のすべて 6年」 日置光久 監修 東洋館出版社  
 ・小中学校理科指導資料「小松の地層 身近な露頭観察」小松市 科学教育研究会

## 泉野小学校大好き ～学校となかよし～

生活科 第1学年  
金沢市立泉野小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の学校内には多くの木々が植えられ、校区にも公園が多いため、児童は自然とのかかわりに関心をもって学習しやすい。また異学年交流が盛んなことから、児童は活動の見通しをもち活動する姿が見られる。しかし経験のないことには消極的で、自ら問題を見つけ活動しようとする姿は少ないと言える。

そこで、2年間を見通した指導計画を作成するとともに、気づきを大切にせる指導方法の工夫、指導に生きる評価と支援のあり方について探った。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持って学校探検を行い、自分のお気に入りの場所を見つけ伝えるとともに、学校にはいろいろな施設や自然があり学校生活を支えてくれている人々がいることがわかる。

#### (2) 指導上の工夫

##### ① 2年間を見通した指導計画の作成

地域や児童の実態より、以下の3つの視点を持ち、指導計画を作成した。

- ・身近な自然や地域環境を生かす。
- ・児童を取り巻く身近な人々とのかかわりを重視する。
- ・単元のつながりや広がりを意識する。

##### ② 気づきを大切にせる指導方法の工夫

児童が思いや願いをもち、くりかえしかかわり合いたくなるような単元計画を立案した。(右図)

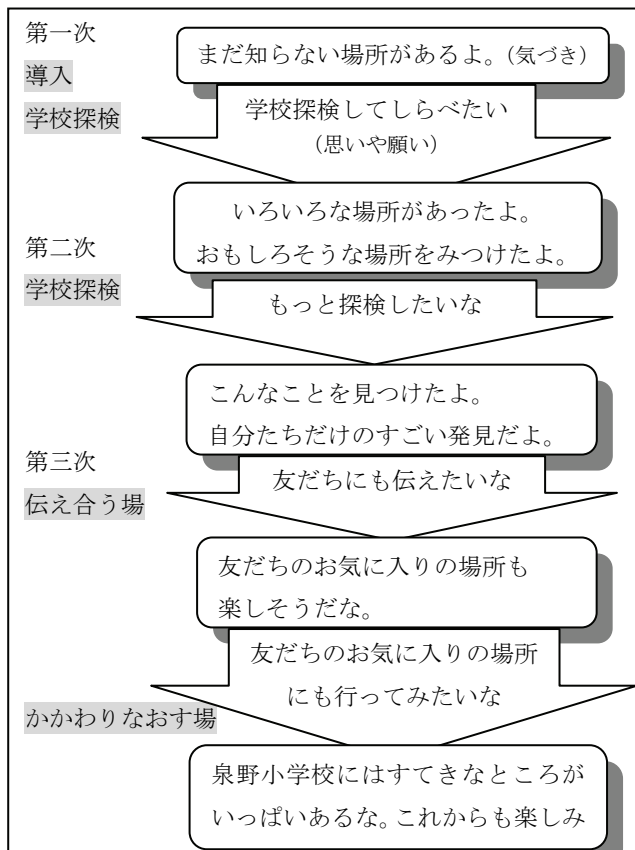
- ・児童の思いや願いを引き出す。
- ・一人一人の思いや願いをかなえる活動を工夫する。
- ・伝え合う場を工夫する。
- ・かかわりなおす場を設定する。

##### ③ 指導に生きる評価と支援

- ・教師の具体的な支援イメージをいくつかもつ。
- ・ふりかえりで書いたものを分析し、次の指導に生かす。

B-1 平成18年度指導計画一覧表

B-2 単元計画



### 3 指導の実際

学習活動	◇評価の視点 ( )評価方法【】評価の観点
<p>1. めあてをつかむ &lt; お気に入りの場所クイズをしよう &gt;</p> <p>2. お気に入りの場所についてクイズで伝え合う</p> <p>ヒント1 さいしょはどきどきしました。</p> <p>ヒント2 カーテンがあります。</p> <p>ヒント3 ピンセットがあります。</p> <p>正解は保健室です。</p> <p>・ゲストティーチャーからお話を聞く</p> <p>3. また行ってみたい場所を話し合い、ふりかえりカードに書く</p> <p>クイズ大会楽しかったね。みんなのお気に入りの場所を聞いたら、行ってみたいくなったよ。次のクイズ大会も楽しみだな</p>	<p>◇みんなに伝わる声の大きさや物の見せ方でクイズを出している。 (発表)【思考・表現】</p> <p>◇お気に入りの場所を進んで話したり、聞いたりしている。 (発表・行動)【関・意・態】</p> <p>◇また行ってみたい場所を書いている。 (ふりかえり)【関・意・態】</p>

C-1 指導案

C-2 支援イメージ

C-3 指導の工夫とその実際

C-4 授業記録

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 2年間を見通した指導計画の作成

2学年の交流を明らかにしたことにより、相互に働きかけ合う活動が年間を通して計画的に位置づけられた。1年生は2年生の具体的な姿を多く見ることで、来年度の活動に期待感をふくらませている。また、単元のつながりを色別に表記して指導計画を作成したことにより、児童が既習経験を思い起こしながら見通しをもって活動できるようになった。

##### ② 気づきを大切にす指導方法の工夫

児童の思いや願い、気づきをイメージしながら指導計画を立案したことにより、児童は「もっと学校のことが知りたい。」という思いをふくらませながら、くりかえし対象とかかわり合うことができた。単元を通して「学校ってこんなにおもしろいと思っていた。」と、前よりもっと学校のことがよくわかった自分に気づく児童の姿が見られた。

##### ③ 指導に生きる評価と支援

児童のふりかえりを分析することは、全員の学習状況を把握でき、誰にどんな支援が必要か考え次時への支援に生かすことができた。具体的に支援イメージをもつことにより、タイミングのよい効果的な支援が行いやすくなった。

#### (2) 課題

思っていることを話したり書いたりクイズにして表現する場をもってきたが、その力については個人差が大きい。どの児童も自分の思いを素直に表現できるように、対話を通して思いを聞きどう表現したらよいか支援していくこと、その時間を保障してあげることなど個に応じたきめ細やかな支援が必要である。また、そのように表現したことが教師や友だちから認められることによって、気づきを価値づけていきたい。

評価を指導に生かすために、様々な児童の様子を予想する教師の力や支援を幾通りもイメージできる力、そして場面や状況に応じてタイミング良く支援する力を高めていくことが大切である。

事例8 題材「世界の音楽めぐり」

## 世界の音楽を聴こう！やってみよう！

～ 表現と鑑賞の関連を図って～

音楽 第6学年

中能登町立鳥屋小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校6年生の子どもたちは、テレビから流れる流行の曲やCMの曲に敏感であったり、好きな曲をキーボードで弾いたり、「音楽」に親しむことには興味がある。半面、音楽の授業になると歌う声は小さくなり、伸び伸びと自分を表現することに恥ずかしさを感じている様子が伺える。

音楽の時間は、文字通り「音を楽しむ」時間であってほしいと願うのだが、その「好きな音楽」と「音楽の授業」の間には、大きな壁があることを日々感じている。この子どもたちが、音楽の授業を「楽しいな」と思うためには、子どもたちの意欲をいかに喚起し、主体的に取り組む姿をつくるかが求められていると感じた。ちょうど、6月に「古典芸能鑑賞教室」があり、箏・三味線・日本舞踊に触れる機会があったため、子どもたちの和楽器に対する興味・関心が高まっていた。また、6年生の鑑賞教材「春の海」で和楽器について学習することもあわせ、魅力のある教材として子どもたちに和楽器（箏）を体験させる授業をしたいと思ったのが、今回の実践のきっかけである。

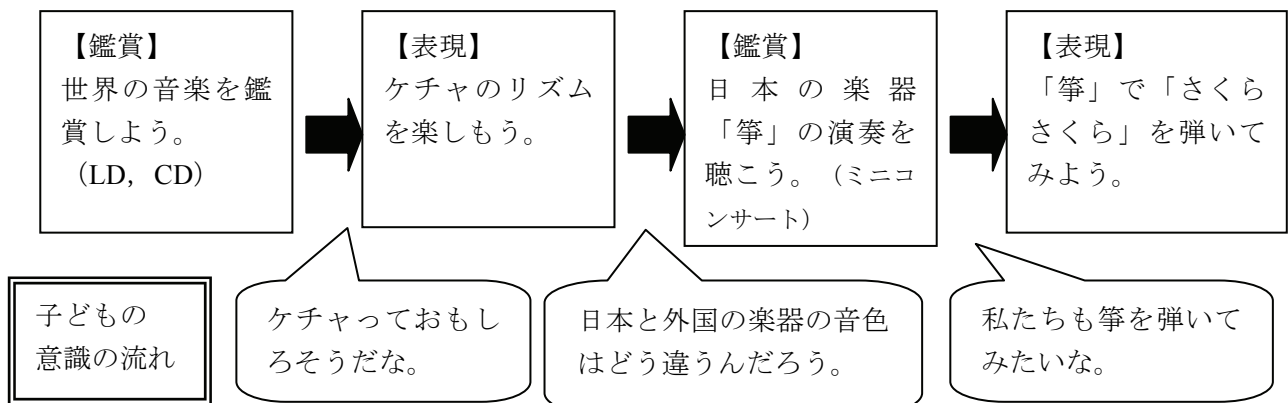
### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ・我が国の音楽を含む世界の多様な音楽のよさを感じ取って聴いたり、意欲的に表現したりする。
- ・箏のもつ独特な音色や奏法を味わい、我が国の音楽への関心を高める。

#### (2) 指導上の工夫点

「表現と鑑賞との関連」から、次のような活動を設定した。鑑賞と表現を挟むことで、「おもしろそう→やってみよう」の意欲の流れが生まれると考えた。子どもが自分の感性を働かせ、感受したことを大切にして、授業を進めるようにした。



B-1 活動計画と学習指導の工夫

B-2 評価の工夫

B-3 実践の内容

### 3 指導の実際

学 習 活 動 と 意 識 の 流 れ	●留意点 ◇◆支援 評価
<p>1. 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「さくらさくら」の曲を楽しみながら演奏してみよう。</div> <p>2. 5グループに分かれ、練習をする。</p> <p>○主旋律が弾けるようになろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">最後まで弾けるようになりたいな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;">「五六八七六一」のリズムが難しい。歌詞と合わないなあ。</div> </div>	<p>●前時にゲストティーチャーに指導していただき、基本的な箏の弾き方を知っておく。</p> <p>◇「七・七・八・・・」という風に弦の番号でも歌ってみる。</p> <p>評価観点①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・箏の音色を楽しみながら、積極的に演奏しようとしている。</p> <p><b>【行動観察】</b></p> </div>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・成果は、何よりも授業後のアンケートでほぼ全員が「箏を演奏できて楽しかった。」と書いてくれたことである。「音楽の授業が楽しい」と思えることが一番にあり、そのための意欲を喚起させる手立てとして今回の実践を試みた。当たり前であるが、主体的に学習する姿勢がどれほどの学習効果をもたらすかを改めて実感した。
- ・表現と鑑賞の関連を図るという部分では、LDや生演奏の鑑賞の後、自分たちもやってみるといふ、子どもの関心・意欲・態度を高める点でよく機能できた。また、音楽的なつながりの部分でも、箏の生演奏の場面を目の当たりにすることにより、自分たちの副次的な旋律や伴奏の創作へと発展させることができた。
- ・1時間に2つの評価場面をつくったのは、正解だった。行動観察の場合、活動中の子どもたちと関わりながらの評価になるので、なかなか全員を見ることができない。評価観点を絞って行動観察をすることが有効だと感じるが、振り返りの自己評価や他者評価を見る中で、教師がつかめなかった子どもの様子を把握することができた。
- ・授業の様子をビデオカメラで撮り、記録として残したのもよかった。活動中の子どもたちの様子がつかめたり、教師がみられなかった場面を確認したりすることができた。同時に、自分の指示の出し方・発問の分かりやすさを振り返るよい機会となった。

#### (2) 課題

- ・この活動を計画するにあたり、周りの協力がなければできなかった。今回は、物的にも人的にも恵まれていたが、もし何もない状況でもこのような授業をしたいと思ったときに、ゲストティーチャーの手配や楽器の貸し出しなどすぐに行えるシステムが確立していればよいと感じた。
- ・時間いっぱい活動で振り返りカードを書いて終わることが多かったが、もう少し子どもたちの感想を交流しあえばよかった。友だちの考えを聴くことで、自分の思いとの違いを感じることができただろう。
- ・世界の民族音楽の実践で、音楽的なつながりをもった表現と鑑賞の関連を図ることができなかった。子どもたちが感じた「おもしろさ」を音楽を特徴付けている要素として、子どもに指導し、それを自分なりに工夫して表現できるよう今後この点を考えていきたい。
- ・音楽に限らず、活動中の場面で全員をどう評価できるかは自分の中でも大きな課題である。



## なんだ!? 入れ物なんだ!

～鑑賞で情報を読み取り、その後の表現に必要な考え方を明確化させる学習のあり方～

図画工作科 第4学年

金沢市立伏見台小学校・教諭

### 1 事例の概要

「確かな学力」の育成をねらい、テーマを「意欲的な学習の姿」の成立として取り組んだ。これは単に活発な学習の姿をめざすだけのことでなく、課題に追求的に取り組みながら、学習を通して資質・能力をしっかり獲得する姿をめざすものである。また、図画工作科における PISA 調査の読解力(参考文献:初等教育資料No.808 P2～3 文科省)を育成する指導の研究としても取り組んだ。

本事例は、作例鑑賞の話し合い<情報の取り出し>が、その後の表現を追求するための新たな造形的な見方や考え方を獲得すること<解釈>となり、次時からは、獲得された見方や考え方が表現を追求する視点となって働き<熟考・評価>、表現の基礎基本に関するねらいを達成できるかという研究である。追求的に学習する中で認識と表現が両立して「意欲的に学習する姿」が成立したか、すなわち「確かな学力」となったかを考察した。

#### A-1 事例の概要

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・入れ物には見えない置物をつくることに興味をもち、筒を立体的な楽しい形にすることを楽しくもっている。  
(造型への関心、意欲、態度)
- ・差し込みができる筒の形をもとにしてつくりたいものを考え、楽しい美しい立体になるように加える部分やその形を考える。  
(発想や構想の能力)
- ・厚紙の折り方(おりすじで)や丸め方など厚紙の扱い方ができるとともに、思いに合ったつくり方をして形よい成形や丈夫な接合ができる。  
(創造的な技能)
- ・部分をつける場所やつくり方に関心を持って作品のつくり方のよさを味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

#### (2) 指導上の工夫点

本題材で獲得させたい見方や考え方は下記のAとBである。

##### A 部分を加える場所：どこから見ても部分がある表現をするとよい

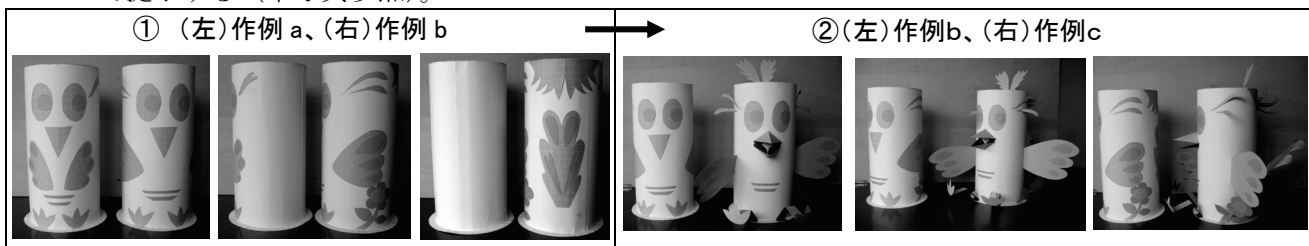
- ・ある方向から見ると何もない(片側から見て表現するだけで平面的)のはさびしい。
- ・どの方向から見ても、もようや部分が見えて楽しい。

##### B 部分のつくり方：部分は(できるだけ)基本の形からとび出るように加えるとよい

- ・(平面的に貼り絵のように加えて)全体がほとんど基本の形(筒)のままではさびしい。
- ・基本の形からとび出る形(立体的に加える形)が多く、全体が基本の形のままではなくものの形をしていると楽しい。

この見方考え方を獲得させるために作例鑑賞をさせた。この時の工夫は次のとおりである。

- ・子どもが興味をもって見るように、視覚的に楽しい三つの作例 a、b、c を作成して提示する。
- ・子どもが比較した場合に、それらの違いやよさに気づきやすいように(「情報の取り出し」のしやすさと後の「解釈」のしやすさ)、象徴的で互いに対照的な表現にし、効果的な順番や見せ方で提示する(下写真参照)。



- ・自分の気づきや考えを明確にするために、しっかり見る時間と思いを言語化する場を設ける。

#### B-1 実践の内容

#### B-2 指導法の工夫

### 3 指導の実際

学 習 活 動	指導上の留意点	評価〈観点〉(方法)
<p>1. 前時における題材の課題を確かめる 「基本の形に部分を加えて 楽しい置物をつくろう」</p> <p>2. 題材の課題に取り組む時に大切なことを考え合う 部分を加える時に どうすれば楽しい置物になるか 考えよう</p> <p>①作例提示 1 (作例 ab の比較) を鑑賞し、気づきや考えを ワークシートにメモしたあと話し合う</p> <p>②作例提示 2 (作例 bc の比較) を鑑賞し、気づきや考えを ワークシートにメモしたあと話し合う</p> <p>3. 大切なことをまとめて次の製作の課題を持つ 話し合ったことをもとにして 気をつけることを まとめよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>部分を加える時に大切なのは、どの方向から見ても楽しくなるように、前だけでなく横や後ろにある部分をいろいろ考えることと、できるだけ部分は基本の形からとび出るようにつくって加えること</p> </div>	<p>表現で大切な見方考え方を具体的に認識できるように、順序立てて対照的な作例を提示し、視覚的によさをとらえながら考えがまとめられるようにする。</p> <p>表現で大切な見方考え方をまとめやすいように、板書やワークシートを工夫しておく。</p>	<p>比較によって思いや考えを持っている。 〈情報の取り出し〉 (ワークシート 発表)</p> <p>話し合いをふり返って 「部分を加える時に大切なこと」をまとめている。 〈解釈〉(ワークシート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>AとBに関して述べ、立体的な表現にすることだと認識されている。 〈鑑賞〉 (ワークシート)</p> </div>

C-1 指導案

C-2 評価計画

C-3 単元計画

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

A、Bの見方考え方は鑑賞により子どもにも認識され、表現に生かされていったことがうかがわれた。このことを、ねらい達成の判断基準をもとにして評価したデータをもとに以下に示す。

●A Bについて特に指導がなかったアイデアスケッチ段階では、A Bについての意識は次のようであった。

- ・全員が正面から見ただけのスケッチであり、(アイデアスケッチなので)簡略な表現をしていた。
- ・すでにA Bが少なながらも現れている子どもは34%(比較的現れている6%+少し現れている28%)。
- ・そのほかの子ども全てはBが現れず、部品を平面的に貼り付ける考えであり、全体の形が筒のままの状態であった。

●鑑賞後の子どもの様相(解釈)は、鑑賞の記述やまとめの記述から次のようであった。

- ・Aを感じ取れた…77%(感じ取れた…60% おおむね感じ取れた…17%)
- ・Bを感じ取れた…100%(感じ取れた…97% おおむね感じ取れた…3%)

●鑑賞後は表現活動となり、最終時の表現の状態(熟考・評価)は次のようであった。

- ・Aは現れた…97%(現れた…79% おおむね現れた…18% 未完成で現れなかった…3%1名)
- ・Bは現れた…100%(現れた…82% おおむね現れた…18%)

#### (2) 課題

上記のように、作例比較によってBの重要性はよく感じ取られ、表現にも生かされたが、AについてはBよりも低くなった。鑑賞では顕著で、考察すると次のようなこととなる。

Aにおける鑑賞による解釈では記述表現の問題があった。それは、情報の取り出しの時に「前だけではなく裏にも上にも部分がある」「どこから見ても部分が見える」ということはしっかり意見に出たが、それを「たくさん部分をつくるとよい」というような安易な言葉でまとめた子どもを不正確な解釈(Aは加える場所のことであり数のことではないから)と評価し、それが23%だったからである。このような指導後の評価で問題となったことは、次時の指導で補った。

今後の課題としては、情報の取り出しや解釈の場で、個々の言葉が共有化されたかを十分確認することがあげられる。また、注意深く対象を見る態度とともに、安易な言葉に気をつけるなど注意深く言語表現する態度を育て、思いを少しでも的確に伝えられるようにすることも大切であろう。

D-1 考察

D-2 表現の実際

## 創造的な技能を高め、豊かな表現の世界を広げる工夫

図画工作 第6学年

七尾市立有磯小学校・教諭

### 1 事例の概要

小学校高学年の児童の造形への関心・意欲が、初めての材料や用具、表し方を経験して高まることが多く見られる。材料では存在感のあるものに関心を示し、表現方法では手ごたえのある活動に意欲を持つ傾向が見られる。また、工作に表す活動では美しさなどを考えデザインしながら形づくり、一人一人の発想や造形感覚、創造的な技能などを働かせるようにすることが大切である。あわせて、児童が使ってみたい材料や用具などを選び、表現方法を試したりやり直しをしたりして取り組めるようにすることも大切である。さらに、友人の表現との交流がきっかけとなって、自分の表現をふり返り、新たなものを加えたり部分を取り換えたりなど自在に進めることができるようにすることも大切である。

児童一人一人の表現力（創造的な技能）はどうかと言うと、想いはあっても、それを十分に表現できないことに不満を覚えている児童も多い。想いを表現できるようにするために、魅力的な題材を用意するとともに、用具の扱いにも十分に慣れさせておく必要があるのではないだろうか。

児童の生活様式が変化してきている今、用具に関する正しい知識をもち、それらを適切に扱えるかどうかということの重要度が増してきていると思われる。用具に関する適切な知識とスキルがあるかどうかで、一人一人の表現に差が出るのではないだろうか。

導入の工夫、材料の工夫とあわせて、用具の扱いの習熟にも力点を置いた指導を行うことで、題材に興味を持たせるとともに、児童一人一人の個性を生かし、表現及び鑑賞にかかわる資質や能力を高めるような指導を進め、その評価をしたいと考え取り組んだ。

#### A-1 児童の実態

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ・実際に使う場面を想像しながら、楽しんでつくろうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・針金を折ったり曲げたりしながら想像を広げ、つくりたい形を思いつく。 【発想や構想の能力】
- ・自分の思いを豊かに表現するために加工の順番を考えたり、材料の良さを生かしたりして創意工夫して表す。ペンチなどの用具を適切・安全に、また、大切に使う。 【創造的な技能】
- ・鑑賞会で作品を点灯して展示し、用途や美しさなどについて想いを広げ、感想を発表する。 【鑑賞の能力】

#### (2) 指導上の工夫点

- ① 導入の工夫・・・創作意欲がわくような題材の与え方
- ② 表現の幅を広げる工夫・・・用具使用の習熟のための課題と、積極的にお互いの作品を見合うことの奨励
- ③ 材料提示の仕方の工夫・・・創造意欲を喚起する材料の用意と、製作しやすさを考えた材料の提示の仕方
- ④ 鑑賞の工夫・・・見学タイム、ショータイム、鑑賞カードで場と機会の設定
- ⑤ 評価カードの工夫・・・製作段階ごとにふりかえりカードの記入

#### B-1 単元計画

#### B-2 準備物

### 3 指導の実際

学習活動		・指導上の留意点 ◆評価
1. 前時までをふりかえり本時の課題をつかむ	「ランプシェードをつくろう」 ・自分の計画をふりかえる	・デザインカードをもとにふりかえる時間を設ける
2. 製作する	《骨組みに色々なものを使って飾り付けをしよう》  ・用具・材料の扱い方には気をつける ・材料に無駄が出ないように計画する ・時々出来具合を確かめる ・友だちの作品を見る	・材料を十分に用意し選びやすい状態で提供する ・用具の扱いについては安全な使い方を押さえる ・丁寧な作業、独創的な作業、協力し合う姿をほめる ・切れ端などは決められた箱に入れるよう促す ◆用具を適切に使い、材料を生かしながら効果的につくっている【創造的な技能】
3. あとかたづけをし、ふりかえりカードを書く	「あとかたづけをして、ふりかえりカードを書こう」 ・次回の製作の事も考えて、ていねいにかたづける ・ふりかえりカードを書く	・用具・材料の後片付けの大切さを意識できるように声かけする

C-1 指導案

C-2 授業記録

C-3 計画図

C-4 作品紹介カード

C-5 ふり返りカードと鑑賞カード

C-6 作品

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

児童たちは黙々と製作に向かい材料を用具で加工し、作品は当初のデザインよりもずっと手の加えられたものになっていった。中には全然違う方向へと向かっていく児童もいたが、非常に高い集中力で作品を作り上げていった。扱ったことのない材料と出会い、使ったことのない用具と出会ったことで児童たちの表現意欲は高まった。後は適切な扱い方を教え、児童たち自身が求める表現方法のヒントを与えることによって、創作活動はどんどん進んでいった。

材料の扱い方を知り、材料と自分の仲立ちである用具を適切に使いこなせるようになることは、表現の幅を広げることになったと思われる。また、このことは、今後、表現活動に向き合う機会を増やすことにもつながるとと思われる。

#### (2) 課題

今回の活動では、児童の創作意欲は高まったが、残念ながら一人一人のオリジナリティあふれるようなデザインを生み出すにはいたらなかった。今後はもっと造形的に多様なものが生まれるような支援と工夫が必要であると思われる。また、みんなと同じようなものを好むのではなく、児童自身が多様な価値観を持てるような機会、様々な材料や美術作品に出会わせる機会も必要となるであろう。

### 5 その他

参考文献 : 図画工作科教師用指導書 5・6下 日本文教出版

## 鉄棒を使った運動の実践

体育 第4学年

かほく市立宇ノ気小学校・教諭

### 1 事例の概要

河北郡市の4年生は、6月に行われた器械運動交歓会に向けて、体育の時間を中心に放課後も学年で練習を行ってきた。低学年から交歓会があることを意識し、器械運動に親しむ機会をたくさん作っている。自分の担当する2年生から5年生の中で各学年1クラスずつ事前アンケートを行ってみたところ、全ての学年において全員が体育の時間を好きと答えた。ところが鉄棒を好きと答えたのは6割程度であった。鉄棒を好きになるためには、楽しいという体験やできたという達成感を持たせることが必要不可欠であると考えた。そこで①練習教材の工夫、②補強運動の工夫、③めあてをもたせる工夫、④関わり合いの工夫の4点を重点に授業に取り組んだ。

#### A—1 事例の概要

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・器械、器具の安全に気をつけながら、友だちと協力し、教え合い励まし合って運動することができる。  
(運動や健康・安全への関心・意欲・態度)
- ・課題を設定し、課題解決に向けて練習を工夫することができる。  
(運動や健康・安全についての思考・判断)
- ・自己の能力に適した技に新たに取り組み、ある程度正確にできるようにするとともに、上がり技、支持回転技、下り技を組み合わせることができる。  
(運動の技能)

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 練習教材の工夫

補助具を活用してできたときも「できた」と認め、スモールステップで技ができるようになるプロセスに、喜びを感じられるようにしていきたいと考えた。逆上がり練習器、跳箱と踏切板、ポートボール台、ゴムひもなどの補助具を活用した。また、痛さに対する嫌悪感・恐怖心が意欲の減退にもつながると考え、落下をしたときに痛みを和らげるために、鉄棒の下にはマットを敷き詰めた。テーピングの巻き方を工夫したり、サポーターの代わりに靴下を切って使用し、痛みを和らげた。滑り止めは粉が飛び散らないように靴下の中に入れた。

##### ② 補強運動の工夫

マット・鉄棒・跳び箱を同時に取り組んだため、補強運動は3つの単元で共通に行えるものと、各種目、各時間によって取り入れたものがある。ABCの3つのグループに分かれ、サーキット形式で行った。回数はわかりやすく10回または10秒とした。

##### ③ めあてを持たせる工夫

技の名前や動き・ポイントがわかるように、鉄棒に一番近い壁に、上がり技、回り技、下り技のポイントを図と言葉で紹介したパネルを掲示しておいた。学習カードは運動量を十分確保できるように、できるだけシンプルにした。表は技能について自己評価と相互評価ができるようにした。裏には振り返りができるようにした。

##### ④ 関わり合いの工夫

補助をしたり、補助具を押さえたり、お互いに技を見せ合い、良かったところやできていないところをアドバイスし合うようにした。教師もできたことを一緒に喜んだり、わずかな進

歩に対しても賞賛をし、学習意欲を持続させた。技のポイントをリズム言葉やイメージをつかませる言葉などわかりやすい言葉で助言をした。

### B—1 指導法の工夫

#### 3 指導の実際

次	学習活動（7時間）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
一 (1)	オリエンテーション ・学習のねらいと進め方を知る。 ・学習カードの使い方を知る。 ・補強運動をする。技を知る。	①鉄棒運動に興味 ・関心を持ち、すすんで取り組もうとする。		
二 (2)	—知る段階— 【ねらい1】 今できる技をくり返したり、組み合わせたりして楽しむことができる。 ・どんな技ができるのか試す。 ・自分のできる技がさらに上達するように練習する。		②自己の能力を知り、学習カードから自分の課題を見つけている。	③今できる技をくり返したり、組み合わせたりすることができる。

### C—1 指導案（単元計画・評価規準）

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

補強運動を継続して行ったことで、腕支持の感覚や逆さ感覚が身に付いたと感じた。また、段階を追って技を練習したことで、「できた」という達成感は味わえたと思われる。単元終了時には新たに、逆上がりは6名、踏み越し下りでは10名ができるようになり、逆上がりはクラスの6割以上、踏み越し下りでは8割以上が技を完成させた。技の紹介パネルや学習カードから技の名前を覚えたり、ポイントを見て練習することができた。友だちと見せ合うことで、できない技でも友だちからヒントをもらい、アドバイスや補助を積極的に行っていた。できたことを一緒に喜ぶ雰囲気クラスに広まり、クラス全体が高まっていく様子が見られた。

##### (2) 課題

補強運動については、児童が意欲を持って継続して取り組み力を付けていけるよう、ゲーム要素を取り入れるなどさらなる工夫が必要である。場づくりには時間がかかり、補助具をおいた鉄棒が種目を限定してしまう。いろいろな段階の子どもがいるが、準備ができる補助具の数が決まっているという課題も見つかった。友だちとの関わりを苦手とする子どももいるので、ペアやチームを作るときには配慮が必要だと感じた。さらに、評価は1時間に1評価を設定することで1時間の指導を焦点化してきた。しかし、逆上がりを中心に補助に時間を要して、評価が難しかった。支援と評価のあり方についても工夫が必要だと感じた。

### D—1 アンケート結果

#### 5 その他

参考図書「小学校体育図解・実践④器械運動」東洋館出版社

「新評価基準表」図書文化

事例12 題材「朝の生活を見直そう」

## 朝食に合う三色野菜いためを作ろう

～調理実習の評価の工夫～

家庭 第6学年

加賀市立作見小学校・教諭

### 1 事例の概要

事前アンケート調査から、健康を考えた朝食をとっている児童は少ないこと、家庭における調理の経験が不足していること、5年生で学習した調理の基礎的な技能が十分身につけていないことなどがわかった。これらの実態を踏まえ、本題材では、どの児童にも野菜のゆで方やいため方、包丁やフライパンの扱い方などの基礎的な調理の技能を身につけさせるとともに、朝食に合う三色野菜いためを工夫し、自分の朝食の課題を解決しようとする能力を育てたいと考えた。これまでのグループによる調理実習では、調理の得意な児童が中心となって作業を行い、どの児童にも調理の基礎的な技能を確実に身につけさせることができなかった。また、クラス全員が一度に実習をするので、評価や個に応じた指導が十分とはいえなかった。

そこで、本題材では、個別調理実習を取り入れたり、家庭との連携を図ったりして、どの児童にも調理の基礎的な技能の定着を図るように工夫した。また、調理実習の評価方法について工夫し、児童一人一人の評価を指導に生かしたいと考えた。

#### A-1 アンケート

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ・朝の生活時間の使い方や朝食に関心を持ち、家族に協力したり朝食に合うおかずを調理したりしようとする。  
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- ・生活時間の有効な使い方、栄養バランスの取れた食品の組み合わせ、朝食のおかずについて考えたり工夫したりする。  
(生活を創意工夫する能力)
- ・生活時間を有効に使い、家族に協力したり、ゆでたりいためたりして朝食のおかずを作ることができる。  
(生活の技能)
- ・生活時間の有効な使い方や栄養のバランスを考えた朝食のおかずの整え方を理解する。  
(家庭生活についての知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点

- ① 個に応じた指導の工夫（個別調理実習）
  - ・調理台を効率よく使用するために3人組のグループを編成。
  - ・どの児童にも確実に調理の技能を身につけさせるための個別調理実習。
- ② 家庭との連携の工夫
  - ・調理のポイントなどを調べるための家庭でのインタビュー。
  - ・調理の技能定着のため、練習カードを活用。
  - ・家庭科学習への協力を求めたり、学習の様子を紹介したりするため、学級便りを発行。
  - ・学校公開日における調理実習の実施。
- ③ 実物の提示や写真による資料の工夫
  - ・実物の野菜で切り方を提示。
  - ・写真による切り方カードの利用。
- ④ 地域のスーパーとの連携の工夫

・地域のスーパーで、商品の表示などを見て、児童が材料を購入。

⑤ 評価方法の工夫

- ・ワークシートの活用。
- ・個別調理実習による行動観察。
- ・相互評価カード・自己評価カードの活用。

B-1 題材の指導と評価の計画
B-2 家庭との連携
B-3 実物資料

B-4 ワークシート

3 指導の実際 (本時の展開 三次 8. 9. 10/11時)

(1) 小題材名 「朝食に合う三色野菜いためを作ろう」

- (2) ねらい
- ・いためやすいように材料を切り、フライパンを安全に扱いながら、順序よく材料を入れていためることができる。
  - ・三色野菜いために他の材料を加えるなど、工夫して調理することができる。

学習活動	児童の反応	評価 (○) 支援 (●) 留意点 (・)
<p>2. 三色野菜いためを作る。</p> <p>サポーター</p>	<p>先にちくわを入れるよ。その後、かたいものからいためるよ。</p> <p style="text-align: right;">調理</p> <p>強火でさっと炒めるんだよ。</p> <p style="text-align: right;">観察</p> <p>材料を分けておいてあったから、手際よくフライパンに入れられるなあ。</p>	<p>○材料を順序よく入れ、適度なかたさに炒めることができる。</p> <p style="text-align: right;">(生活の技能) (行動観察・相互評価・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炒めすぎないように声をかける。</li> <li>●炒める順番がわからない児童には、かたいものから順に炒めることを確認する。</li> <li>●手際よく材料を入れられない児童には、サポーターの児童に手渡してもらうように声をかける。</li> </ul>

C-1 指導案
C-2 自己評価カード
C-3 相互評価カード

C-4 実習の様子

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 個別調理実習により、児童の意欲が高まり、家庭で練習してくる児童が増えたので、技能を高めることができた。
- ② 家庭でのインタビューにより教科書には出ていない調理法が分かり、児童の意欲につながった。また、練習カードの活用や学級便りなどにより、保護者の意識を高めることができた。
- ③ 実物の提示や切り方カードの活用により、調理に自信のない児童に対し支援できた。
- ④ 地域のスーパーとの連携により、消費者としての意識を高めることができた。また、食品の保存方法についても理解を深めることができた。
- ⑤ ワークシートの活用により、評価を次時の指導に生かすことができた。また、個別調理実習により、担任一人でも行動観察で評価しやすくなった。また、判断の基準を明確にした自己評価カードや相互評価カードの活用により、担任の気づかなかった点を評価できた。

(2) 課題

技能が定着する時間を確保して評価を行いたい、家庭の事情により練習回数にばらつきのあることや、学校の授業でも回数をこなせないため、どの時点で技能の評価を行うのかということについて課題が残る。

D-1 成果と課題



## 「ごめんなさい」でぽっかぽか

道徳 第1学年

能美市立和気小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、研究主題を「豊かな心を育む学校づくり～認め合う子、共感し合う子の育成～」としている。温かい人間関係づくりを通して人権感覚を養い、互いのよさを認め、ともに伸びようとする児童を目指している。そのような児童の姿は、学校教育活動全体を通して育成されるものであり、中でも、道徳教育を学校教育活動と関連させて、計画的・発展的に進めることが必要であると考えた。そのために、本校では、道徳教育の柱となる重点目標を見直し、学校教育活動との関連を見通した年間指導計画を作成し、実践することにした。

#### A-1 人権教育年間計画

### 2 実践内容

#### (1) 主題設定の理由

入学して2ヶ月。教師との関わりを強く求めていた子どもたちだったが、学校生活に慣れるにしたがって行動範囲や関わる人々が広がってきた。それとともに、友達同士でのトラブルが出てくるようになった。1年生の子どもたちは活発で仲がいいのだが、度々、友達同士であいさつが交わされていなかったり、手助けしようやさしく声をかけてくれる友達に対して上手に関われなかったりする姿が見られ、トラブルの原因は、コミュニケーションの行き違いであることが多いと感じた。

今後、友達や上級生、先生などの様々な人々と人間関係を築いていく第一歩として、あいさつは欠かせない。あいさつに複数時間取り組む中で、人と関わる心地よさを感じ、進んで人と関わろうとする行動力をつけたいと考えた。

1年生は、まだまだ自己中心的な考えが強く、自分の立場を守りたいという思いから、うそやごまかしの誘惑に負けてしまうことが多い。本時では、1年生だからこそ、「ごめんなさい」というあいさつをとおして、自分に正直になる快さに気づかせ、正直・誠実に生きることの大切さを学ばせたいと考えた。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 総合単元的な取り組み

人間関係作りの基盤として、「あいさつでぽっかぽか」を合い言葉に総合単元的な取り組みを行った。いろいろなことばの中から特に「ありがとう」「ごめんなさい」を選んで重点的に取り組むことにした。本校ではこれらのことばもあいさつとしてとらえている。あいさつの取り組みは、学校だけでは不十分であるので、最初の授業を授業参観で公開し、保護者にも協力をお願いした。

##### ② 展開の工夫

友達の大切なクレヨンを折ってしまったのぼるの心の葛藤を考えることによって、のぼるに共感させたいと思い、クレヨンを折って葛藤している場面とのぼるが正直にあやまった場面の2つに分けて提示した。その後、「ごめんなさい」と正直に謝り、友達に許してもらったのぼるの劇化を取り入れることによって、のぼるのほっとした快い気持ちに気づかせることができた。最後には、のぼるのような体験を学級の中で話し合ったり、教師の説話には失敗談を用いたりして、自分に正直に過ごす快さや大切さを改めて確認し合った。

### ③ 評価の工夫

授業前後の子どもたちの変容を知り、励ますために、以下のような評価を行った。

- ・あいさつに関するアンケート（授業前後）
- ・あいさつでぼっかぼかカード（今日一日あいさつができたかどうか）
- ・ありがとうポスト（実践力がついたか）
- ・個人カルテ（子どもたちの行動の様子）

あいさつでぼっかぼかカードには、子どもたちに励ましの言葉を添えて家庭に返した。1時間の評価だけではなく、今後も総合的に子どもたちの変容を見ていくことが必要である。

## 3 指導の実際

配時	学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点 ◆人権教育の視点
展  開	○「ぼきっ」とクレヨンが折れたとき、のぼるさんはどう思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった</li> <li>・もしかして折れちゃったのかな</li> <li>・大変だ</li> <li>・どうしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレヨンが折れた時ののぼるの気持ちを、児童と共有するため、実際にクレヨンを折る。</li> </ul>
	◎「だまっていようか・・・」というのぼるさんは、この後、どうしたと思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごまかしたと思う。 (誰も見ていないから、ばれなければいいから、怒られるのがこわいから、知らなかったことにすればいい)</li> <li>・あやまったと思う。 (とみこさんはゆるしてくれると思うから、わざとじゃないけど悪いことをしてしまったから、かくしきれないから)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のぼるの「だまっていようか・・・」と「返事ができなかった」という言葉に注目させ、ごまかそうとする気持ちと、正直にあやまろうとする気持ちの間で葛藤していることに気づくようにする。</li> </ul>

### C-1 指導案

### C-2 授業の様子

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・資料をもとに、児童が自分の体験を交流できた。
- ・劇化によって、あやまったのぼるの気持ち、ゆるしてもらえた時ののぼるの気持ちに寄り添うことができた。
- ・子どもたちは、初めは人のものをこわしたりなくしてしまったりしたときのことを話しにくそうだったが、最後には、心を開いてのぼるのような経験を話し、自分に正直に生活する大切さ、快さを感じ合うことができた。

### (2) 課題

- ・今後、子どもたち自身で正直に気持ちよく過ごせたかをふりかえるために、心のノートを活用するのもよい。
- ・低学年では、心情に迫るために、ていねいに状況を押さえたり、劇化や役割演技などを取りいれたりすることが効果的であり、勧めていく必要がある。
- ・学習後は、教材を教室に掲示し、いつでも振り返られるようにするとよい。

## 自分の成長を知ろう

～自己の変容を大切にした評価～

特別活動 第6学年

金沢市立三馬小学校・教諭

### 1 事例の概要

三馬小学校の子ども達は、全体的に素直で落ち着いて学校生活を送っている。また、エネルギーや行動力があり、互いに友達のよいところを認め合うという優しい面を持っている。しかし、反面集団の中では受身で、自己表現したり伝え合ったりするという力が弱く、自分らしさを発揮できず人の考えに流されてしまいやすいという傾向も見られる。子ども達による学級や学校の生活の充実と向上を図るためにも、互いの考えを尊重しながら、自発的・自治的な話し合い活動に向かうようにしたい。そのための指導の工夫や指導に生かす評価の在り方を探っている。また、本校の学校行事では実行委員会形式を取ることが多いが、特別活動の評価は、教科における知識・理解等の評価と違い、言動や態度などの変容を評価していくことが多い。特に一つ一つの学校行事の中で、細かな評価規準を設定するのは難しい。そこで、年間を通して、学校行事、学年行事を経験するたびに、その過程の中で自分を見つめ、自分の成長を知る良い機会と捉え、自己評価を中心に自己の変容を大切にした評価を行っていくこととした。

#### A-1 三馬小学校における特別活動について

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・運動会を通して、「今までの自分」「練習中の自分」「運動会後の自分」とその練習過程の中で自分を見つめ、自己の変容に気づき、自分の成長を知る。
- ・運動会に関する様々な話し合い活動を通して、学級への所属感、連帯感を高め、より自主的実践的な態度を育てる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 指導法の工夫

最高学年として活動する学校行事に加え、学年行事や総合的な学習の時間での1年生との関わりの中で、最高学年としての自覚や責任、下級生への思いやりある行動、接し方を学ぶ機会となる。それらを実行委員会とし、一人一役となりすべての児童が実行委員会に関わることにした。また、実行委員会の進め方やどんなことを大切にするのかを明確にする必要があると考え、次のような取り組みを行った。

- ・学年黒板に各実行委員の活動時期・活動内容を明記し、いつ活動するのか自覚を促す。
- ・実行委員の連絡コーナーも設け、子ども達が自主的に活動できるよう意識を促す。
- ・実行委員会で使った「実行委員会記録用紙」「実行委員の振り返り」を掲示する。

さらに、話し合い活動の充実と学級会係（司会者）への指導の重視するために、次のことを行った。

- ・学級集団全体の高まりを評価するとともに、子ども達一人一人の力について評価、分析し、評価したことを一人一人の子どもに返すことによって指導を深める工夫をする。
- ・円滑な話し合い活動を進めるため、全体の流れを全員に確認し見通しをもたせた。また、「司会の仕方カード」を活用し具体的にイメージできるようにする。

## ② 評価の工夫

- ・低中高学年とそれぞれの発達段階に応じて、目標を段階的に高めていけるように考え、話し合い活動の評価規準を設定した。次に、評価の場面や方法、指導の手立てについて考えた。また、評価を次の指導に生かすことができるように、具体的な場面を考えながらまとめた。
- ・学校行事や学年行事での過程の中で自分を見つめ、自己の変容や成長を知り、その自己評価を大切にす。

B-1 実行委員会年間計画

B-2 学級活動での取り組み

B-3 話し合い活動評価規準

B-4 学年・学級経営方針

## 3 指導の実際

主な学習の流れ	○評価と◇支援
<ol style="list-style-type: none"><li>1 去年の運動会での6年生の姿を思い出そう<ul style="list-style-type: none"><li>・団長として応援団をリードしていた</li><li>・6年生がわからないことをいろいろ教えてくれた</li></ul></li><li>2 運動会の成功のためにはどんなことが必要か話し合おう<ul style="list-style-type: none"><li>・係活動に責任感を持って取り組むことが必要だと思う</li><li>・運動会の成功のために、いろんなアイデアをだす</li></ul></li><li>3 運動会に向けての今の気持ちや運動会で付けたい力を考えよう<ul style="list-style-type: none"><li>・今年は5年生をリードしたい（リーダーシップを身につけたい）</li><li>・責任感を持って仕事をする（責任感を身につける）</li><li>・応援団に入って、恥ずかしがり屋の自分を変えたい</li></ul></li></ol>	<p>◇具体的な場面での6年生の姿を想起させる。</p> <p>○運動会の成功のためには何が大切か考えることができる。[発表]</p> <p>◇ワーク「運動会を通しての自分の成長」に今の自分の気持ちや運動会を通して身につけたい力を書かせる。</p>

C-1 指導案

C-2 指導の実際とその工夫

C-3 運動会における指導の実際

## 4 成果と課題

### (1) 成果

年間を通しての実行委員会を明記したことで、自分達で自主的に実行委員会を開き、教師がいなくても進めている実行委員会が多くあった。また、「実行委員会の振り返り」を見て、どんなことを話し合ったかを見ることで話し合いを円滑に進めることができた。

また、今の自分を見つめた後にめあてを書いたことや、「運動会に向けての決意」を最初には書かず、練習中や役割についての活動途中の自分を見つめ確認した上で書かせたことで、めあての内容も「自分に足りないものを身に付けよう」「長所を伸ばそう」という意識が見られた。また、活動途中に振り返りや自分を見つめ直したことで、少しずつ変化している自分や、もっとうしろならいいなと思うなど、当日に向けての課題や今後の考え方にも変化が見られた。

### (2) 課題

それぞれの係に分かれた時の活動や、リレーや応援などの自主練習、当日の動きなどについては把握できない場合も多かった。担当の先生方に聞いたり、逆に担当の先生から伝えてくれたりするなどして、ある程度の情報は入るが十分とは言えなかった。そのため、評価を子ども達の振り返りに頼る面が大きくなった。子ども達一人一人の学習状況をよりの確に把握し、評価に生かしていく方法を今後考えていきたい。

事例15 単元「夕日寺発 地球を守る方法を教えます」

## 電気の使用量をへらす方法を考えよう

総合的な学習の時間 第5学年

金沢市立夕日寺小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校は施設移転に伴い、校内に太陽光発電や中水利用、ビオトープなど環境に考慮した施設ができた。従来からある夕日寺の豊かな自然や文化をもとに、環境教育を推進できる地域である。環境教育で味わえる直接的体験や具体的な活動は、子どもの五感を磨きながら感性や主体性を育み、豊かな人間形成に寄与できると考えている。そこで本校では、環境教育を総合的な学習の時間の柱として考え、平成17年度から研究主題「共に生きる子をめざして～かかわり合いながら課題解決の喜びを味わえる授業をめざして～」を設定した。

特に今年度は、教科との関連を図った総合的な学習の時間を通して、児童につけたい確かな力、「見つける力」「調べて考える力」「伝える力」の3つの力を設定し、授業実践に取り組んでいる。その際、関連させる教科の力を明確にすること、教科の力を生かす場を具体的に設定すること、評価を工夫することの3点が重要であると考え。

本事例は、第5学年の総合的な学習の時間において、この3点に留意しながら立案した実践事例である。児童が地球温暖化について知り、それを防ぐために自分たちにどんなことができるかを調査活動や実験等を通して考え、日常生活で実践できるように構成した。

A-1 学校研究の概要

A-2 教科と関連したつけたい力

A-3 指導法や評価の工夫改善

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・地球温暖化について知り、温暖化を防ぐために学校や地域で省エネの目標を立て、省エネ生活が送れるような方法を考えることができる。(見つける力)
- ・省エネ生活ができるように、自分が選んだ方法で粘り強く実践・追求し、そこから得られた結果からよりよい省エネ方法について考えることができる。(調べて考える力)
- ・自分が調べたり実践したりして得られた結果を、効果的な方法で分かりやすくプレゼンテーションしたり、まとめたりすることができる。(伝える力)

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 関連させる教科の力の明確化

児童の実態に応じて、つけたい力と各教科の育てたい資質・能力を関連付け、明確に位置づけた。また、低中高別にどのような資質・能力を身につけなければならないのかを系統立てて位置づけた。総合的な学習の時間だけでなく、各教科の指導においても、つけたい力と育てたい資質・能力を意識しながら単元や本時レベルにおけるねらいを明確にしてきた。

##### ② 教科の力を生かす場の設定

総合的な学習の時間における毎時の評価観点および規準を明確化し、単元レベルや本時レベルでどのような力がつくとよいのか具体的なめざす児童の姿を明記した。

また、本時では、理科の資質能力である「条件を制御する力」と関連させ、電気使用量が一番少なくなる使用方法を考え、その後で実験するようにした。

③ 評価の工夫

- ・ 単元や本時レベルにおけるねらいを明確にし、単元計画において、単元の最初の場面では「見つける力」を中心とし、「調べて考える力」を課題解決学習の中心に位置づけた。学習の最後には、「伝える力」を生かす場面に明記し、学習内容のまとめる場とした。
- ・ 学習の最初に達成度を提示し、児童自身でどのような姿になればよいのかの見通しを持たせ、学習の最後で振り返りの場を設定した。また、単元終末では、自己評価の時間を確保した。

**B-1 ねらいと単元計画 その1**

**B-2 ねらいと単元計画 その2**

3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援☆・評価◆(方法)
実験の方法を考える      ふりかえり	<p>&lt;電化製品の電気の使用量を減らす方法を考えよう&gt; 対象；TV、ストーブ、ホットカーペット</p> <p>正確に実験するためにはどうしたらよいか 植物の発芽の実験のように、条件をそろえて調べないといけない</p> <p>条件をそろえながら実験する必要がある</p> <p>もう一度、実験しよう</p>	☆調べたい項目(要因)を出させる。 ☆再実験させる。  ◆要因を制御する必要性に気づき、正確に実験ができる。 【理科5年：条件を制御して実験をすることができる】 (ワークシート・実験)

**C-1 指導案**

**C-2 授業記録(抜粋)及び考察 その1**

**C-3 授業記録(抜粋)及び考察 その2**

4 成果と課題

(1) 関連させる教科の力の明確化

今年度から本校では初めて、総合的な学習の時間と教科等との関連を明確にし、具体的な姿も低中高など系統性を持たせた。そのことにより、教育活動全体を通して身につけるべきつけたい力も、総合的な学習を通して明確に指導することができるようになった。

(2) 教科の力を生かす場の設定

ホットカーペットの使用時間や使用面積などの要因を制御して実験することができた。また、テレビの音量、チャンネルなど子どもらしい実験もすることができた。これらの資質は、2月「おもりのはたらき」の学習にも生かさせ、条件を制御し実験することができた。このように教科の理科の力を生かす場の設定が効果的であったと考える。また、グループ内の話し合いやクラス間での実験の経過報告会を随時行いながら、条件について見直し、よりよい実験をすることにもつながり、理科の「観察実験の力」を身につけることができた。この学習を通して「調べて考える力」が身につけてきたと考える。

(3) 評価の工夫

つけたい力を明確にし、評価の観点や規準を明確にすることで、児童一人一人の学習状況を客観的に把握することができた。また、総合的な学習の時間だけではなく、教科の時間にも、その評価をフィードバックすることができ、単元計画や事象の提示の工夫などができた。しかし、理解に時間を要する児童にどのような支援を実施していくかを、より具体的に計画しておけば、より一層理解を促すことができたと考える。

**D-1 成果と課題**